

令和3年度 事務事業評価シート（1）

[令和2年度事務事業]

一般会計		事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	公害健康被害予防事業	事業番号	011-224
担当部署名	健康福祉 局 健康 部	保健所 保健医療	課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
			無	取組の方向性	—		—
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		—
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	目標値	—
			無	取組	—	ターゲット	—
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		—
		無	現状値	—	目標値	—	
2	関連計画						
3	事業開始年度		平成 1 年度		点検年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等) 公害健康被害の補償等に関する法律						

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸器疾患相談：呼吸器に不安を有する15歳以上の市民 約750人（厚生労働省平成29年患者調査より推計） ●ぜん息児水泳教室：気管支ぜん息に罹患している3歳以上の未就学児、小学生約2,100人（平成30年環境保健サーベイランス調査より推計） ●ぜん息児健康回復キャンプ：気管支ぜん息に罹患している小・中学生約2,000人（平成30年環境保健サーベイランス調査より推計）
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸器疾患相談：参加者の慢性閉塞性肺疾患に関する理解を深めるとともに、療養にかかる知識を習得していただくことにより、参加者の健康の回復、増進につなげる。 ●ぜん息児水泳教室及びぜん息児健康回復キャンプ：参加した児童とその家族に、ぜん息に対する正しい知識に基づく行動変容を促すとともに、「ぜん息を患っていても水泳やキャンプに参加できた」という自信を持つことにより、今後の児童の積極的な活動へのきっかけにさせていただく。
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など ※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸器疾患相談 医師による呼吸器についての講義、個別相談、理学療法士によるリハビリ指導などにより、呼吸器疾患に関する理解を深めるとともに、療養にかかる知識を習得することにより、疾患の予防、健康の回復を図る。 ●ぜん息児水泳教室 水泳により呼吸器を鍛えるとともに腹式呼吸法を習得させることにより、ぜん息児の健康回復、保持増進を図る。 ●ぜん息児健康回復キャンプ 空気清浄な環境にかかる合宿を通じ、日常生活の療養指導やぜん息体操などを行うことにより、ぜん息児の健康回復、保持増進を図る。
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	
10	公民連携・協働事業	

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	点検年度 令和7年度
11 「呼吸器疾患相談」参加により慢性閉塞性肺疾患に関する理解が深まった方の割合	%	目標値	100	100	100	100
		実績値	83	0		
		達成率	83%	0%		
当該指標を選定した理由		事業目的である参加者の慢性閉塞性肺疾患に関する理解度を図る指標であるため				
目標値の設定根拠・算出方法		参加者アンケート結果にて「呼吸器疾患の知識が深まった」と回答した者の割合				
活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標	
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
12 「呼吸器疾患相談」の参加者数	人	目標値	32	40	40	
		実績値	17	0		
		達成率	53%	0%		
当該指標を選定した理由		より多くの参加者にぜん息に対する正しい知識に基づく行動変容を促すものであるため				
目標値の設定根拠・算出方法		「呼吸器疾患相談」の参加者数				

令和3年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	公害健康被害予防事業	事業番号	011-224
-------	------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

（単位：千円）

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
	決算	決算	予算	決算	予算	
事業費 (a)	3,266	2,210	3,246	3	1,232	
13 財源内訳	国支出金					
	府支出金					
	市債					
	その他（負担金等）	2,980	2,210	2,865	3	1,232
	受益者負担金(使用料、手数料等)					
一般財源	286		381			
14 人件費 (b)	7,570	7,515	7,660	1,870	7,660	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	10,836	9,725	10,906	1,873	8,892	

事業費の内訳

（単位：千円）

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源
16 事業費内訳	R2 決算	0	0	医師報酬	R2 決算	3	0
					R3 予算		
	R2 決算	0	0	会計年度任用職員報酬	R2 決算	0	0
					R3 予算		
	R2 決算	0	0	理学療法士出務謝礼金	R2 決算	0	0
					R3 予算		
	R2 決算	0	0	会議出席等旅費	R2 決算	0	0
					R3 予算		
	R2 決算	0	0	消耗品費	R2 決算		
					R3 予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和元年度	令和2年度
① 呼吸器疾患相談参加者数	人	17	0
② 上記①にかかる年間経費	千円	1,617	1,873
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	95,118	
備考（算出についての説明等） 公害健康被害予防事業のうち「呼吸器疾患相談」に係る歳出額及び人件費			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 「ぜん息児水泳教室」及び「ぜん息児健康回復キャンプ」については、募集人数に対し参加者数が少なく、またリピーターの占める割合も多い状況であった。これに加え、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全ての事業を実施できない状況であったことから、費用対効果が低くなっている。

これらのことから、令和3年度からは「ぜん息児水泳教室」及び「ぜん息児健康回復キャンプ」の両事業を廃止するとともに、「呼吸器疾患相談」について、対象年齢や実施方法の見直し等による「呼吸器疾患相談」の充実を図る。

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全事業を休止したため、事業目的の達成には至らなかったが、事業の見直し（「ぜん息児水泳教室」及び「ぜん息児健康回復キャンプ」の廃止と、対象年齢や実施方法の見直し等による「呼吸器疾患相談」の充実により、事業目的の達成をめざす。